

活動報告

団体名	コミサポひろしま
活動名	仮設住宅における住環境（住み心地）改善とコミュニティの活性化応援事業
活動期間	2017年5月～2017年12月
活動の成果	<p>事業名：「仮設住宅における住環境（住み心地）改善とコミュニティの活性化応援事業」</p> <p>期 間：2017年5月～12月末</p> <p>内 容：仮設住宅における住民参加型での風除室の設置等を通じた住環境の整備とコミュニティの活性化促進応援</p> <p>活動を通し、仮設団地の住民の方々の生活環境の改善に努めるとともに、住民間での共助等の促進に微力ながら貢献をすることができたと考えます。仮設住宅団地での生活は、住民さんの方々の自宅での生活とは様々な点で不自由があり、当たり前を我慢しなければいけないこともあります。「風除室」の設置は、そのような環境を少しでも改善するとともに、活動を通して、住民さんの方々が外に足を運び、作業を通し体を動かす、隣近所で会話をする、そんな些細なきっかけ作りに繋がっていただくと考えます。</p> <p>また、外部からボランティアも参加することにより、普段とは違う会話も生まれ、活動外の困りごとにも耳を傾けるきっかけとなりました。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>熊本地震復興にかかる当団体へのご支援、誠にありがとうございました。</p> <p>「コミサポひろしま」では、2017年5月より、益城町の複数の仮設住宅団地において風除室の設置等、住民の方々やボランティアと共に進めてまいりました。盆地に位置する益城町ですが、夏は暑く、冬は寒さが厳しい地域です。仮設住宅の多くは「プレハブ」で設計されており、必要最低限の住環境は整備されていますが、普段生活を送ってきた我が家に比べればその環境は必ずしも良いとは言えません。</p> <p>雨の度に室内まで吹き込む雨粒、寒い冬でも扉をあけるとすぐに広がっている生活空間。玄関のスペースや寒さを和らげる緩衝部分は「仮設住宅」にはありません。</p> <p>また、「仮設住宅」の生活期間は一般には2年間とされていますが、震災から1年が過ぎ、2年目を終えようとしている今も今後の生活が定まっていない住民は多くいます。</p> <p>「コミサポひろしま」では、そこに暮らす被災者の皆さんが、「被災者だから仕方ない」「今は我慢しないといけない」そんな状況を少しでも和らげ、不便なく暮らせるために、微力ながら活動を続けてまいりました。</p> <p>また、活動を通して住民の方々どうしのコミュニケーションや助け合いが進むよう、作業だけではなく、可能な限り住民の方々を巻き込んだコミュニケーションを大事にしてきました。</p> <p>このような活動を続けてこれたのも、一重に寄付を下された皆様からの支えがあったからだと思えます。活動への支援ありがとうございました。復興への道のりはまだ半ばですが、今後とも皆さんの熊本への支援よろしくお願い致します。</p>

(活動のようす)

